

令和3年3月1日

静岡大成高等学校第17回卒業証書授与式 学校長式辞

ようやく桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れが間近に感じられるこの良き日に、共に学び、喜び、励まし合った静岡大成高校3年生の旅立ちの時を迎えることとなりました。

本日、静岡大成高等学校、第17回卒業証書授与式を挙げるにあたり、ご多用の中PTA会長、前田徳久様、同窓会長、仁田桂子様のご臨席を賜りましたことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませう。陰になり陽向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いが走馬灯のようによみがえってきていることと思ひます。この3年間、本校の教育方針にご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

155名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。心よりお祝ひいたします。皆さんが、凛々しい姿で、優しい心を持って、大成高校を卒業して行くことを、私たち教職員や在校生は、本当に嬉しくそして頼もしく思ひます。大成高校を卒業したことに誇りを持ち、時代に即応する新しい人材、すなわち時代を担うリーダーとして活躍してほしいと願っています。

さて、皆さんの高校生活最後の年は、コロナ禍により、世界が大きく変わった年となりました。そして、皆さんにとっては大変残念な年になってしまいました。新年度が始まると早々に休校となり、対面授業も進路活動もできない日々が1ヶ月以上続き、不安な日々を送ったことと思ひます。最上級生として活躍できたはずの文化祭や体育祭も中止、ほとんどの部活動で、最後の活躍の場が奪われました。学校でも登下校でも家に帰っても、感染のリスクを気にしながら、気持ちの晴れない毎日だったことでしょう。そういう中で、皆さんは立ち止まることなく、進学・就職を目指して一步一步前に進み、次のステージを獲得しました。そういう先輩たちの姿を見て、後輩たちはどんなに勇気づけられたことでしょう。このコロナ禍の中で、学校が大きな混乱もなく今日までやって来られたのは、皆さんが後輩たちに範を示したからだと思ひます。ありがとうございました。

物事には2つのとらえ方があります。ポジティブ、すなわちプラス思考でとらえるか、ネガティブ、すなわちマイナス思考でとらえるかです。この高校生活最後の年を、皆さんにはぜひポジティブに捉えてほしいと思ひます。コロナ禍により生活に制約が多く、やりたかったことがあまりできなかった、とネガティブにとらえるより、制約の多い中で自分のできる限りのことができた、苦境を乗り越えるために自分を鍛えることができた、とポジティブにとらえて、自分の今後の財産にしてほしいということです。

私から皆さんに一つアドバイスがあります。それは「哲学を持つ」ということです。難しい学問をしろということではありません。哲学とは、何かを追求し深く考えること、そして自分なりの考え方ややり方を見つけることです。ですから、皆さんが、普段から考えていることとか、取り組んでいることなどを、さらに深めて自分のものにするのが自分の哲学なのです。

たとえば、10年連続200本安打など、数々の大記録を打ち立てた、野球のイチロー選手は、こう言っています。「苦しみを背負いながら、毎日小さなことを積み重ね記録を達成した。」これは、イチロー選手の不断の深い思考や追求する心、つまり彼の野球に対する哲学であり、イチロー選手を支えてきた原動力と言えます。自分の哲学は、自分が生きていく中で大きな支えとなります。困難に出会ったとき、迷ったとき、より高みを目指そうとするとき、哲学はそれを乗り越え、判断し、前に進む勇気を与えてくれるでしょう。

これから皆さんは、一人ひとりが社会の一員として責任を果たしていかなければなりません。ぜひ、自分の哲学を持ち、自分の信念に基づいて行動できる人になってください。

最後に、本校創立者である杉原正市先生のご言葉を紹介します。私の挨拶を終わりにいたします。「学校でいただく成績は、あくまでも仮のものであって、決して、その人の価値を決めるものではありません。真にその人の価値を決める成績は、皆さんが世の中へ出て、どのような生き方や生活をするかによって、世の中の人たち、つまり社会が、皆さんの本当の成績をつけてくれるのですよ。」

それでは、卒業生の皆さんの今後のご活躍を祈念して、式辞とさせていただきます。ご卒業おめでとうございます。